

# 保育学生による保育技術を生かした ボランティア活動の教育的効果

—人形劇を中心とした実践活動から—

金城 悟・金城久美子

The educational effects of using the skills of puppet plays for volunteer activities by the students majoring in early childhood care and education

Satoshi Kinjo and Kumiko Kinjo

キーワード：保育学生、保育技術、ボランティア活動、人形劇、教育的効果

## I はじめに

短期大学は地域の身近な高等教育機関として、高等教育の普及や実践的職業教育などの面で重要な役割を果たしている（文科省、2012）。全国に公立 24 校、私立 364 校、合計 388 校の短期大学が設置されており、145,045 人の学生が在籍している（2011 年度文科省統計）。このうち、251 校が指定保育士養成施設となっており、239 校が幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方を取得できる学科を設置している。東京成徳短期大学幼児教育科（以下、本学）は、1965 年に幼稚園教諭二種免許状取得の課程認可を受け開校し、1970 年に保母養成課程の指定を受けた。幼児教育科は、本学の建学の理念「成徳＝徳を成す」の実現を目指して、人間形成の最も大切な時期のひとつである幼児期の教育を担う「資質の高い保育者の養成」を教育目的としている。保育者としての専門知識・教養と保育技能を修得し、人間関係を大切にする豊かな心をもって、他者から信頼・評価を得るような実践的力のある保育者の育成を目標としている。

「資質の高い保育者」、「実践力の高い保育者」をめざすには、保育技術の修得が不可欠となる。保育技術の内容については教育機関や研究者、現場の保育者によってさまざまであり、統一された規定があるわけではない。例えば、全国高等学校家庭科教育振興会が実施している保育技術検定では、音楽・リズム表現技術（ピアノ演奏、歌唱）、造形表現技術（壁面構成、貼り絵、折り紙、描画）、言語表現技術（素話の創作と実演、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、童謡等短文の読みきかせ）、家庭看護技術（乳幼児の生活の世話）の 4 領域を設定している。全国保育士養成協議会の保育士試験においては音楽（ピアノ等楽器演奏）、絵画制作、言語（童話等）が実技科目として設定されている。一般的に、子どもとのコミュニケーションを行うために必要な子どもの発達理解を基盤とした表現活動は、保育技術として認識されている。

保育系の学科を有する短期大学や大学では、保育技術をカリキュラムの中に位置付けている。学生は授業の中でピアノ演奏、絵画制作、童話の読み語り、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、人形劇などの保育技術を学ぶ。本学においても音楽表現、基礎造形、保育者の言語表現、児童文化演習などの科目で保育技術の指導が行われている。保育系の学科では、

通常の教室内の授業以外にも幼稚園・保育所（園）の保育現場で保育技術を実践する機会が設けられている。また、児童文化研究部などの名称で保育技術を取り入れたクラブ活動を実施している短期大学や大学もある。保育系の学科に所属する学生、いわゆる保育学生はなんらかの保育技術を身につけていると考えられる。

本学では、ボランティア部において、保育技術を用いた実践活動が1998年の設立以来、実施されている。ボランティア部で実施された保育技術は、2005年まで手遊び、歌遊び、障害のある子どもとのコミュニケーション（手話や点字）が中心であったが、2006年以降は、人形劇を取り入れた活動が行われている。学生のボランティア活動は、短期大学基準協会による第三者評価の評価項目の一つとなっており、また、2011年4月には文部科学省が東日本大震災でボランティアに参加した学生の活動を単位として認めるとの通知を全国の国公立大に出した。このことから、学生のボランティア活動は社会的にも重要視されている活動であり、教育機関の活力を示す活動であるといえよう。

保育技術はボランティア活動に役立つものなのか。また、保育学生が保育技術を用いたボランティア活動を行うことにはどのような教育的意義や教育的効果があるのか。このことを把握することは、幼稚園教諭、保育士を育成する保育系学科のカリキュラムや学生生活の在り方を社会的な視点から見直し、より意義の高いものに再構築する試みの一助となるのではないだろうか。

そこで、本研究は本学ボランティア部で人形劇の活動が始まった2006年から2010年までの5年間の活動を分析対象とし、保育系短期大学の部活動における保育技術の教育的意義と教育的効果について検討することを目的とした。

## Ⅱ 方法

保育学生による保育技術を生かしたボランティア活動の教育的効果を検討する目的で、東京成徳短期大学ボランティア部の実践活動を研究材料とし、つぎの7つの視点から分析を行う。

1. 指導者の構成
2. 年間活動スケジュール
3. 部員募集
4. 部員への指導ポイント
5. ボランティア技術の修得
6. 人形劇指導
7. 保育技術を生かしたボランティア活動の教育的効果

## Ⅲ 結果と考察

### 1. 指導者の構成

本学のクラブ活動は、専任教員1名が顧問となる顧問制を採用している。ボランティア部は、本学幼児教育科の金城悟が1998年に学生に呼びかけ設立したクラブであり、設立以降2011年3月まで顧問として指導に当たった。金城悟は2000年に本学非常勤講師の渡辺真知子氏（人形劇団ブーク<sup>注1</sup>）主催の人形劇セミナーに参加したことが契機となり、2006年度の活動から人形劇を保育現場における公演に加えることを計画した。人形劇の指導は人形劇

の経験豊富な人物を招聘することにした。しかし、本学のクラブ活動には外部指導者制度があるものの外部指導者に対する交通費や謝礼金などは設定されておらず、プロの人形劇人を招聘することが困難であった。そこで、無報酬で指導にあたる人物を選定することになり、2000年からボランティア部の外部指導者として不定期に本学に来校し、学生の指導にあたっている金城久美子<sup>注2)</sup>に人形劇の指導を依頼することになった。金城久美子は、保育者養成系の大学で人形劇指導の実績を有しており、自身も人形劇団夢の国の代表として人形劇を用いた震災支援等のボランティア活動の経験豊富な人物である。また、9年間の幼稚園教諭経験もあることから保育者を目指すボランティア部の学生の人形劇指導者として適任であると考えた。公演活動のプロデュースや学内外の関係機関の諸手続きの調整は顧問の金城悟が、人形劇や遊び等の保育技術は金城久美子を中心に指導（金城悟はサポート）するという体制が整い、2006年3月からボランティア部における人形劇指導がスタートした。

## 2. 年間活動スケジュール

年間の活動スケジュールを表1に示す。

## 3. 部員募集

4月に部員募集を行う。部員募集は、主として(1)クラブ・サークルガイド、(2)ポスター、(3)チラシ、(4)クラブ・サークル紹介イベント、の4つの方法で実施した。クラブ・サークルガイド(図1)は本学で正課外の教育活動を支援する大学の組織である学生部と学生の自治会である桐友会が共同で作成し発行する冊子である。ポスター(図2)は部員とボランティア部顧問が共同で作成し学内の指定掲示板に掲示するものである。チラシ(図3)は部員が作成するもので4月から5月に新入生を対象に学内で配布する。クラブ・サークル紹介イベントは4月に新入生を対象として学生部と桐友会が共同で実施するもので、本学で公認されているクラブ・サークルが参加し、各々の活動を紹介するパフォーマンスを行う。

表 1 年間活動スケジュール

| 月       | 主な活動内容                                                          |
|---------|-----------------------------------------------------------------|
| 4 月     | ・ 1 年生オリエンテーション：部員募集<br>・ イベント（クラブ・サークル紹介）：人形を用いた部活紹介<br>・ 新入部員 |
| 4 月～6 月 | ・ 人形劇脚本作成<br>・ 人形制作スタート<br>・ 手遊び、ペープサート、パネルシアターの練習<br>・ 桐友祭準備   |
| 7 月     | ・ 人形劇フェスティバル公演                                                  |
| 8 月     | ・ 人形制作<br>・ 夏期集中練習<br>・ 夏祭り公演                                   |
| 9 月     | ・ 人形劇練習<br>・ 手遊び、ペープサート、パネルシアターの練習                              |
| 10 月    | ・ 桐友祭公演<br>・ 手遊び、ペープサート、パネルシアターの練習                              |
| 11 月    | ・ 人形劇練習<br>・ 手遊び、ペープサート、パネルシアターの練習                              |
| 12 月    | ・ クリスマス公演                                                       |
| 1 月     | ・ 新部長・役員決定<br>・ 手遊び、ペープサート、パネルシアターの練習                           |
| 2 月     | ・ 2 年生お別れ会<br>・ 部室整理                                            |
| 3 月     | ・ 新年度年間活動スケジュールの作成<br>・ 新年度人形劇実施に関するミーティング                      |



図 1 クラブ・サークルガイドの一例

2008年5月29日(木)

## 東京成徳短期大学ボランティア部へようこそ！

Welcome to the Tokyo Seitoku College Volunteer Club!

顧問：金城 悟

指導者：中田久美子(人形劇対夢の国代表)

2年生部員一同

### □ボランティア部とは？

東京成徳短期大学ボランティア部(略してボラ部と呼びます)は、幼稚園・保育園・児童福祉施設などを訪問して、人形劇の公演を行ったり、子ども達と手遊びや歌遊びなどして子ども達をハッピーにしてくことを目的としたクラブです。



東京成徳短期大学でも歴史の古い伝統のあるクラブです。これまで桐友際において 2006 年度、2007 年度連続して学長賞を受賞しており、ボラ部の活動は学内外から高い評価を得ています。

ボラ部に入部すると、人形劇のほか、さまざまな児童文化に関する保育技術を学ぶことができます。ぜひ私たちと一緒に活動していきましょう！

### □ボラ部で練習すること

#### (1)人形劇に関すること

- ・シナリオ作成、人形作り、舞台作り、人形劇の練習

- ・桐友際に向けての練習、各種公演に向けての練習

#### (2)保育技術に関すること

- ・パネルシアター、エプロンシアター
- ・手遊び、歌遊び、コーラス、楽器演奏

#### (3)ボランティア技術に関すること

- ・手話、障害のある子どもの理解
- ・レクリエーションゲーム
- ・王子第二特別支援学校訪問、ボランティア講座参加

### □活動日

定例会：(          曜日)    (          )時～          場所(          )

練習日：(          曜日)    (          )時～          場所(          )

### □会費

月(          )円 ※会費は積み立てして練習のときのお菓子代などに用います

図2 部員募集ポスターの一例



図3 チラシの一例

#### 4. 部員への指導ポイント

##### (1) 1年生への対応

新入部員の1年生は、仲間同士で入部した者もいれば単独で部活動に興味を示し入部した者もいる。まずは、何よりも互いの名前を覚えコミュニケーションを通して仲間意識を築くことが重要になる。ボランティア部では、ニックネームで呼び合うことで互いの距離を縮め、1年生は困ったことなど先輩に質問しやすいようにした。これらの関係性を早い時期に築くことは、新入部員をつなぎとめることにおいても必要である。異学年の交流から、楽しく部活動を行うことの他に授業内容や実習体験の話など、情報を共有できることも短期大学における部活動の意義である。こういった話をする時間も活動には重要であり、顧問や指導者は介入しないようにし学生同士の時間を大切にしたい。

##### (2) 2年生への指導ポイント

2年生は、1年間部活動を経験しただけで最高学年になる。そのため、進級した当初は2年生であるという意識が少なく「先輩」という立場で後輩に接することへのためらいや照れがある。1年生とコミュニケーションをとることで2年生である自分の立場を自覚し、後輩に指導しながら活動を進める体制をとる。2年生には1年間学んで身につけた手遊びやパネルシアターなどを後輩に伝承するように伝え、同時に今年度の活動計画をたて、学業と両立しながら積極的に活動するように促す。

##### (3) 実習、アルバイト等で忙しい状況にある学生への指導ポイント



幼児教育科の学生は、幼稚園実習、保育所実習があるうえ、授業で課されるレポートや実技課題も多く大変忙しい。部活動において人形劇の新作を考え、公演ができるまでの行程を計画的に行わないと授業との両立が難しく、予定した公演日に間に合わなくなる。部活動の計画は、学生が行い顧問や指導者が見通しを付けたアドバイスをおこなう必要がある。アルバイトや習い事をおこなっている学生も多いため、部活動の日に全員が集合できない事もある。学生同士で役割分担をし、協力し合って進めるよう促すことが重要である。

## 5. ボランティア技術の修得

ボランティア部では、主として幼稚園・保育所（園）、保育所（園）以外の児童福祉施設、特別支援学校において幼児及び児童を対象としたボランティア活動を行っている。ボランティア先では子どもたちや保護者、施設関係者との円滑なコミュニケーションを図り、子ども達の笑顔と笑い声を引き出すような関わりが必要となる。保育者が保育現場で用いるいわゆる保育技術（保育実技）は、ボランティアの現場でも役立つ技術である。また、ボランティア部で保育技術を学び、ボランティアの現場で技術の成果を発揮することは、保育者を目指す保育学生である部員にとって将来の仕事の現場で生かすことのできる技術となる。そこで、ボランティア部では保育技術を子どもと施設に関する基本理解、パフォーマンスの技術の2つに分け、各々に関する理解・技術を深めることを行った（表2）。

表2 ボランティア技術

| 分類             | 内容                              |
|----------------|---------------------------------|
| 子どもと施設に関する基本理解 | 1. 乳幼児の発達に関する基本理解               |
|                | 2. 障がい児（乳幼児期、児童期）の発達・行動に関する基本理解 |
|                | 3. 実習先（幼稚園、保育所、児童福祉施設）に関する基本理解  |
| パフォーマンス技術      | 4. 手遊び                          |
|                | 5. 歌遊び                          |
|                | 6. ペープサート                       |
|                | 7. パネルシアター                      |
|                | 8. 人形劇                          |

ボランティア技術のうち、子どもと施設に関する基本理解は、保育者養成校である本学の正規の授業で学習が可能である。授業以外に、ボランティア部顧問が研究室に参考書を用意し、部員が自由に手に取れるようにした。さらに、顧問による講習や施設職員を本学に招いての講習、ボランティア先で施設職員による講習の時間を設定する、などの形式で知識・理解を深める機会を確保した。

パフォーマンス技術は、手遊び、歌遊び、ペープサート、パネルシアター、人形劇の5種目を部員が習得すべき技術として設定した。パフォーマンス技術に関するトレーニングは全てボランティア部の外部講師が担った。手遊びや歌遊びは保育現場で一般的によく知られている演目を確実に習得するよう練習した。外部講師による手遊び講習のトレーニング内容の

一例を表3に示す。

表3 手遊び講習における練習項目の一例

アンパンマン、ウルトラマン、はじまるよ、おはなし、ひげじいさん、変なひげじいさん、あたまかたひざボン、グーチョキパーでなにつくろう、やまごやいっけん、これくらいのおべんとう箱に、むすんでひらいて、魚がはねて、宇宙人、まるいたまご、げんこつ山のたぬきさん、おちゃらか、やきいもグーチーパー、お寺のおしょうさん、こぶたぬきつねこ、カレーライス、パンダウサギコアラ、おちたおちた、やおや

## 6. 人形劇指導

### (1) 台本制作

ボランティア部の人形劇公演は、人形劇以外に、手遊び、歌遊び、ダンス、パネルシアターなどの保育技術を含む演目構成となっている。人形劇は公演の中でメインの演目という位置づけである。

人形劇は毎年、オリジナルの台本によって実施される。台本制作のプロセスを表4に示す。新年度の台本制作は3月から人形劇指導者の指導のもとで始まる。部員は各自で人形劇の原案を作成し、台本作成ミーティングで原案のプレゼンテーションを行う。ミーティングを重ね、大まかなストーリーが決定したら、絵コンテを作成する。部員の中から台本を執筆する担当者を1名決め、絵コンテをもとに文章化していく。台本は、シーンごとに部員が実演し、実際の演劇効果を確認しながらセリフ、人形の動きなどを改良していく。また、実演の場面をビデオで撮影し、映像を見ながら観客の立場になって改良点のアイデアを出し合っていく。

台本制作は指導者が立ち会う週1回のミーティングの時間以外に、部員同士が時間のあるときに集い、台本制作に関わる。台本は手書きやワープロによって作成される。台本の例を図4、図5、図6に示す。

表4 台本制作の主要プロセス

| 日程    | 内容                                                                |
|-------|-------------------------------------------------------------------|
| 3月    | ・1年生部員による台本制作ミーティングスタート<br>・部員各自が人形劇の企画を立てる                       |
| 4月    | ・部員各自の人形劇原案を持ち寄りプレゼンテーションを行う<br>・大まかな人形劇ストーリーを決定する<br>・台本執筆者を決定する |
| 5月～7月 | ・部員全員による共同討議を重ね台本の原案を作成する<br>・台本の内容を実演しながら細部の改良を加える<br>・人形劇公演台本完成 |



作成年月日： 2006 年 8 月 31 日

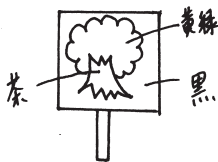
# ボランティア部 人形劇台本

演目： だいへんしん ☆

| MD番号      |                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                             |                        |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|------------------------|
| 登場人物      | セリフ・動き                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 音楽                          | 備考                     |
| 卵         | (舞台中央に登場)                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ①                           |                        |
|           | ♪ 上を見上げたら、おひさまがお空で<br>ピカピカ ある森の奥に卵が落ちてまじ                                                                                                                                                                                                                                                     | ②<br>F(ずんずん)の音を残して<br>なる    | セリフがない 音量<br>28 くらい    |
| ネコ<br>ウサギ | (下手より登場)<br>ネコが卵を見つけてウサギを呼ぶ。卵を<br>見てネコは卵の反対側へ行く。ネコとウサ<br>ギは交差するように卵をのぞく。(2回)<br>ネコは卵に近づいて、触ってウサギと同時<br>に跳びはねる。ネコはおひえ、ウサギは卵<br>を見る。 ♪ 繰り返し<br>「ウン」と2匹はうなずき、ネコが卵を持って<br>はなれ、ウサギと卵がキャッチボールする。<br>3回目でネコの頭を卵が通過する。ネコは<br>卵を目で追う。2匹卵のもとへ行く。<br>卵が重たく。 ♪ ① ② ③<br>ネコとウサギはビックリして振り返りながら<br>下手へ退場する。 | ③                           | 卵... 割れた卵と交換           |
| 青虫 ⑩      | (キョロキョロしながら、卵が割れて出る)                                                                                                                                                                                                                                                                         |                             |                        |
| 卵         | (卵は舞台から消す)                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                             |                        |
| 青虫 ⑪      | ふわあ〜。ここはどこだろう。お月様が<br>へっこへっこだよ。(キョロキョロする)<br>なんだか おいしい草が いっぱいだ。<br>あー! あっちにも おいしい草があるぞ!!<br>(上手へ歩きたす) → ④                                                                                                                                                                                    | セリフに合せて<br>小さく 33           | セリフがある 音量<br>20 くらい    |
| くま        | (上手から登場し、青虫⑪をのんびり<br>になる)<br>わあ〜! なんてこんなところにいるんだよ<br>(くましく トーンとした感じ)                                                                                                                                                                                                                         | 大きく 33<br>小さく 33            | → 28 に上げる<br>→ 20 に下げろ |
| 青虫 ⑫      | おいしい草を食べていたんだよ。                                                                                                                                                                                                                                                                              | (7秒ほど曲が<br>終わるまで注意<br>する!!) |                        |

( 1 / 10 ) 頁

図4 手書き台本の一例 (2006 年度 演目：だいへんしん ページ1)

| 登場人物 | セリフ・動き                                                              | 音楽  | 備考                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|---------------------------------------------------------------------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| くま   | そうか。それにしても君は、小さいねえ。<br>ふみつぶすところだったよ。                                | 止める |                                                                                                                                                                                                                                     |
| 青虫①  | ごめんね。ぼくもくまさんみたいに大きくなりたいなあ。なんでそんなに大きいのか？<br>(くまを見上げる。)               |     |                                                                                                                                                                                                                                     |
| くま   | うーん、そうだなあ。(考える)<br>ぼくは、果物が大好きなんだ。果物をたくさん食べたから、こんなに大きくなった。           |     |                                                                                                                                                                                                                                     |
| 青虫①  | へえー。ぼくも食べたいなあ。                                                      | 入める |                                                                                                                                                                                                                                     |
| くま   | じゃあ、ぼくの一箱好きな果物をあてられたら、きみにあげるよ。<br><br>では問題です。ぼくの好きな果物は、木になっているものだよ。 | ⑤   | <p>・音楽が鳴ったら出す。</p>  <p>・「木になっているものだよ」のセリフの後で、はてなのペープを裏返す。</p>  |
| 青虫①  | うーん。葉巻してぼくじゃわからないよ。みんなも一緒に考えてね。(ちよと月)                               |     |                                                                                                                                                                                                                                     |
| くま   | 葉巻しいみたいたなあ。では、もう少しヒントをあげるよ。その果物は、丸いかたちをしているよ。<br>さあて、みんなはわかるかな？     |     | <p>・出ている木のペープを下げて、りんごのシルエットのペープを出す。</p>  <p>スズの用意</p>                                                                                           |

( 2 / 10 ) 頁

図5 手書き台本の一例 (2006年度 演目：だいへんしん ページ2)

| 登場人物                                                                       | セリフ・動き                                                                                                                                                                                                                                           | 音響効果・その他                  |
|----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|
|                                                                            | (魔法を掛け合い上手下手にはける)<br><br>ジャングル                                                                                                                                                                                                                   | 宝箱もはける<br><br>場面変化        |
| 3人<br>プリン<br>ポプリ<br>ピーチ                                                    | (サル・ウサギ・イヌになり上手から登場)<br>(少し歩く)<br>おなかすいたよ～～。<br>う～ん・・・ガマンしてよお～。<br>私も疲れてきちゃった。                                                                                                                                                                   |                           |
| プリン<br>ピーチ・ポプリ<br>プリン<br>ポプリ<br><br>ピーチ<br>プリン                             | あっ・・・(キノコを見つける)<br>(キノコに気付かないで歩いている)<br>(2人に離れてキノコの方に行く)<br>プリンちゃん大丈夫？(後ろにいるプリンを心配する)<br>・・・あれ？プリンちゃん！！<br>キノコに近づいたらだめだよ！！<br>え？おいしそうだよ。                                                                                                         | 警戒心はない<br>キノコは上手の<br>端に登場 |
| キノコ<br>プリン<br>ピーチ<br>ポプリ<br><br>プリン<br>キノコ<br>ピーチ<br>プリン<br>ポプリ<br><br>キノコ | 君たち何をしているんだ？<br>なんだ・・・食べられないのか。<br>キノコが喋ってる！！<br>私たちはこのジャングルのなかで一番強いものを探しているの。<br>でもお腹空いたの・・・。<br>あっちにお菓子の家があるよ！<br>え！？本当？？　行こう！！<br>うん。うん。行こう！！(2人で先に進み下手にはける)<br>えー？？でも怪しいよ・・・。<br>待ってー！！(追いかけて下手にはける)<br>ひっかかった。ひっかかった。ヒヒヒ・・・<br>(キノコは上手にはける) |                           |
| 3人<br>ピーチ<br>プリン<br>ポプリ<br>ヘビ<br><br>ピーチ・プリン                               | (歩きながら上手から登場)<br>もっと先かな～～？？？<br>もう歩けないよ・・・<br>やっぱりキノコにウソを言われたんじゃない？？<br>(上手から登場し静かに近づく)<br>(3人の前に回り込み道をふさぐ)<br>シャー————！！！！！！<br>キャ————！！！！！！                                                                                                     | ヘビが脅す声                    |

図6 ワープロ台本の一例(2008年度 演目:ちびっこ魔女の大冒険 ページ7)

## (2) 人形制作

ボランティア部で用いた人形はすべて部員の手作りによるものである。保育現場で保育者が実際に演じることが可能な人形劇を目指したため、人形、小道具の素材は保育者が日常的に利用している手に入りやすい身近なものや廃材を用いた。保育者が容易に手に入る素材や道具を用いて人形制作を行うことの主な利点は、入手しやすいこと、短時間で作成できること、破損した部分を早急に補正できること、コストがかからないことなどがある。

主な人形の制作ポイントを表5に示す。

表5 主な人形の制作ポイント

| 人形の種類            | 作り方のポイント                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 片手使い人形           | <p>①頭部<br/>頭部の素材は発泡スチロールの球体にパイル地を貼り付けたもの。発泡スチロールの球体をカッターで鼻や頬などの突起部分を残して削る。発泡スチロールで耳などの顔に付属する部分の形に削る。削った発泡スチロールの球体に接着剤でパイル地を貼り付ける。フェルトで目を貼る。</p> <p>②胴体<br/>パイル地とキルティングを重ねてミシン胴の形に縫う。首部分には厚紙で筒を作り、パイル地を巻きつけたものを胴体の体部分に差し込んで縫いつける。</p> <p>③頭部と胴体の合体<br/>ハンダゴテで頭部の首部分に穴をあけ、胴体に縫いつけた首を差し込んで接着剤で接着する。</p>                                                                                       |
| ペットボトル人形         | <p>①準備<br/>1.5リットルペットボトル（炭酸用の丸型）、7cmまたは8cmの発泡スチロールの球体、45cmの菜箸、黒画用紙、布（顔・体・手足）、ハサミ、カッター、木工用接着剤、その他（EX;厚紙など）</p> <p>②制作工程<br/>型に合わせて布を切る（上半身・下半身・顔）。上半身の布を縫う（手をつける）。ペットボトルを切る（球体が入るか確認する）（切り口で怪我をしないように）。球体に布を貼り、顔を貼る（正面を向いた目にするとう注意を促すこと）。ペットボトルの下半身に布を貼る。上半身と下半身を接着剤でくっつける（先端が中央になるように注意する）。ベルトで上半身と下半身の貼りあわせ部分を隠す。ペットボトルに棒を差し込み接着剤で顔をつけた後、顔と首を縫い合わせる（顔や体が正面を向くように）。棒に黒画用紙をつける。足部分をつける。</p> |
| カラーポリ袋の龍         | <p>制作工程<br/>新聞紙、綿、トイレトペーパーなどの身近な材料で龍の中身を形作る。龍の中身に、カラーポリ袋を巻く。龍の目鼻、胴体部分の飾りを折り紙、画用紙でつける。胴体部分に竹竿などの棒を差し込み、固定し安定して操作できるようにする。棒は黒く塗る。</p>                                                                                                                                                                                                                                                        |
| カラー発泡スチロールの球体の青虫 | <p>制作工程<br/>カラー発泡スチロールの球体に穴をあけ、モールが通るようにする。カラー発泡スチロールの球体にモールを通し、先頭と後方に出たモールは丸めてスチロールが抜けないようにし、先頭に丸めた部分は鼻とする。つなげた長さに合わせて2か所に菜箸を指し込み、固定し安定して操作できるようにする。菜箸は黒く塗る</p>                                                                                                                                                                                                                           |

## (3) 桐友祭（本学学園祭）公演

桐友祭は年1回、10月に開催される本学の学園祭である。2011年度で第46回を迎えた。桐友祭はクラス単位やクラブ・サークル、教職員の催し物が行われる。ボランティア部では

2006 年以來、桐友祭で人形劇公演を実施している。2006 年度から 2010 年度までの人形劇公演の題目を表 6 に示す。公演は 2 日間に渡って行われ、公演回数は基本的に午前が 2 回、午後が 2 回（午後 3 回実施の年度もある）実施される。公演会場は教室を使用し、舞台、観客席を設置し室内装飾を行う。舞台や観客席の設置は部員だけでは困難で顧問や指導者も作業に参加し、部員とともに全員で取り組む。室内装飾は部員が担った。桐友祭公演の一連のプロセスを図 7～図 14 に示す。

表 6 桐友祭における人形劇公演の題目

| 年度   | 人形劇の題目                                   |
|------|------------------------------------------|
| 2006 | だいへんしん                                   |
| 2007 | ぐるくんだいかつやく                               |
| 2008 | ちびっこ魔女の大冒険                               |
| 2009 | わくわく☆びっくり箱！                              |
| 2010 | わくわく☆びっくり箱！ 2010 バージョン<br>ブラックパネルシアターの世界 |



図 7 桐友祭 準備段階 ※人形劇に用いる小道具の作成風景



図 8 桐友祭 練習風景 ※けこみ（人形劇用舞台）を用いた練習

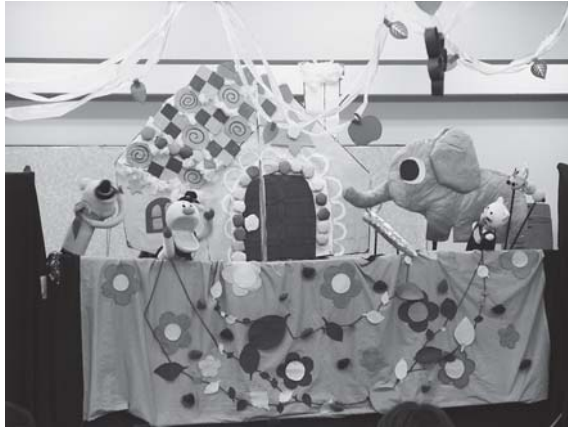


図9 桐友祭 舞台正面



図10 桐友祭 舞台裏

※人形を操作する者と台本を確認しながら音響を担当する者(手前)



図11 桐友祭 装飾の一例

※公演会場（教室）のカーテンに劇の内容をイメージした装飾を施す。テーブル上には部員の作成した人形と布製絵本が展示されている





図 12 桐友祭 装飾の一例  
※公演会場の入り口壁面の装飾



図 13 桐友祭 公演終了後（1）登場人形とともに  
※ 2006 年人形劇最初のメンバー



図 14 桐友祭 公演終了後（2）登場人形とともに  
※満足感で笑顔があふれている

#### (4) 児童福祉施設公演

知的障害児施設を中心とした保育所以外の児童福祉施設において開催されるイベントにボランティアメンバーとして部員が参加した。児童福祉施設でのボランティア活動は、人形劇など公演活動以外にイベント全体の各種作業の手伝いも必要となる。部員は、ボランティアメンバーとして会場の装飾、椅子・テーブルの設置、食事準備補助、配膳、片付け、模擬店・屋台補助、室内清掃、会場案内、障がい児のサポートなど多岐にわたる活動に取り組む。1日の活動時間は、8:30～16:30頃までとなる。ボランティア部の公演内容は、セリフを用いないボードビルを中心とし、人形劇でもセリフが少なく人形の動きで楽しめるような演目を採用した。知的障害児施設でのボランティア活動は、初めて障がい児に接する部員も多く、精神的・身体的な疲労の負荷が高いものである。しかし、ボランティア終了後に実施されるミーティングでは、「参加してよかった」「子どもたちが笑顔で応えてくれた感激した」という肯定的な感想が大半で、満足感の極めて高い活動となっている。知的障害児施設でのボランティア活動を図15に示す。



図15 児童福祉施設ボランティア活動  
※施設内で夏祭り用の提灯作り

#### (5) 人形劇フェスティバル公演

人形劇フェスティバルは公共団体が主催するもので、プロ、アマを問わず、多数の人形劇団、人形劇関係者が参加する。ボランティア部は、大学(東京都北区十条台)からの交通の便を考慮して、千葉県松戸市主催の「おはなしフェスティバル」(図16)、千葉県柏市主催の「わくわく人形劇まつり」に参加した(図17)。人形劇フェスティバルの当日のボランティア部のスケジュールの一例を図18に示す。人形劇フェスティバルの活動を図19、図20に示す。人形劇フェスティバルでは、学園祭における公演とは異なり、小学生までの子どもとその保護者による観劇が多い。子どもの反応がストレートに演者に伝わる。子どもたちは、演者の

セリフや人形の動きに笑い声をあげたり、驚いたり、人形から発せられる問いに答えたり、かくれんぼをしている人形にオニの人形を見つけようと近づいてきたら「ダメ」と声をかけたり、「かくれて」と指示したりとさまざまな反応を示す。人形を媒介として演者と子どもの間にコミュニケーションと共感的な感情が発生する。人形劇フェスティバルは、学生が保育現場と同様の感情体験に接する貴重な場となった。また、人形劇フェスティバルは公的な活動であり、通常のボランティア活動とは比較にならない規模の人的資源とコストをかけて企画・運営される活動であるため、学生個々人に責任感と主体性をより育む教育的効果が大きであったと考える。

| <div>  <b>第18回 おはなしフェスティバル2006</b> </div> |                                 |                                                                                    |                                                        |                                                  |                                      |       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|--------------------------------------|-------|
| 会場                                                                                                                         | ホール                             | 201                                                                                | 202                                                    | 301                                              | 303                                  | 会場    |
| 時間                                                                                                                         | くま劇場                            | きりん劇場                                                                              | 絵本の部屋                                                  | あひる劇場                                            | ぶた劇場                                 | 時間    |
| 12:00                                                                                                                      | オープニング                          |  |                                                        |                                                  |                                      | 12:00 |
| 12:15                                                                                                                      | 人形劇<br>「ヘンゼルとグレーテル」             |                                                                                    |                                                        |                                                  |                                      | 12:15 |
| 12:45                                                                                                                      | (配) 松戸市おはなしキャラバン                |                                                                                    |                                                        |                                                  |                                      | 12:45 |
| 13:00                                                                                                                      | 人形劇<br>「いたすらおばけケムン」             | 紙芝居<br>「きつねのかみさま」<br>にーにゃ                                                          | 絵本<br>「かあちゃんのせんだくキック」他<br>P.V.I.絵本プロジェクト松戸支部<br>ちゃんぷるず | 人形劇<br>「ブレーメンの音楽隊」<br>小金剛福祉会 風の子字屋クラブ            | 人形劇<br>「あやとりひめ」<br>グループ虹             | 13:00 |
| 13:25                                                                                                                      | いずみキャラバン                        |                                                                                    |                                                        |                                                  |                                      | 13:25 |
| 13:35                                                                                                                      | 人形劇<br>「おおかみと7ひきのこやぎ」           | 人形劇<br>「ねことかにのかけくらべ」<br>おおきなき                                                      | 絵本の読み聞かせ<br>絵本はじめのいっぽ<br>おはなしボランティアの会                  | 紙芝居<br>「橋の上で」他<br>人形劇団 ワイルドチャー                   | 人形劇<br>「3ひきのやぎのがらごらどん」<br>新松戸ベビーホーム  | 13:35 |
| 13:55                                                                                                                      | 7ひきのこやぎ                         |                                                                                    |                                                        |                                                  |                                      | 13:55 |
| 14:05                                                                                                                      | ボードビル<br>「パラエティ-ボードビル」          | 紙芝居<br>「うさぎのワンピース」他<br>ミニシアターサークル かさぐるま                                            |                                                        | 人形劇<br>「あかすきんちゃん」<br>人形劇団 ふうせん                   | パネルシアター<br>「鬼のパンツ」他<br>ハッピーメロディ      | 14:05 |
| 14:30                                                                                                                      | ポケット文庫                          |                                                                                    |                                                        |                                                  |                                      | 14:30 |
| 14:40                                                                                                                      | 人形劇<br>「おおきなかぶ」他<br>古ヶ崎放課後児童クラブ | パネルシアター<br>「小さな世界」他<br>新徳大宇バスレシアターサークル<br>でんでん虫                                    | 絵本の読み聞かせ<br>松戸子どもの本ネットワーク                              | 人形劇<br>「だいへんしん☆」他<br>人形劇団 夢の国<br>東京成徳短期大学ボランティア部 | 人形劇<br>「ならんですいすい」他<br>子供サークル わんぱくキッズ | 14:40 |
| 15:05                                                                                                                      |                                 |                                                                                    |                                                        |                                                  |                                      | 15:05 |
| 15:15                                                                                                                      | 人形劇<br>「ジャックと豆の木」<br>キャベツおはさん   | 紙芝居<br>「つつじのむすめ」他<br>のいちごの会                                                        |                                                        | 人形劇<br>「なかよし」他<br>人形劇団 絶好調                       | 人形劇<br>「まんまるパン」<br>すっこけ・ワー           | 15:15 |
| 15:40                                                                                                                      |                                 |                                                                                    |                                                        | 人形劇<br>「あかすきんちゃん」<br>東京都立江北高校1年E組                |                                      | 15:40 |

★プログラムは変更になる場合があります。

101  
コアラルーム

休憩と折り紙の部屋

102  
パンダルーム

赤ちゃんの部屋

ホワイエも楽しいよ!

絵本の読み出しコーナー

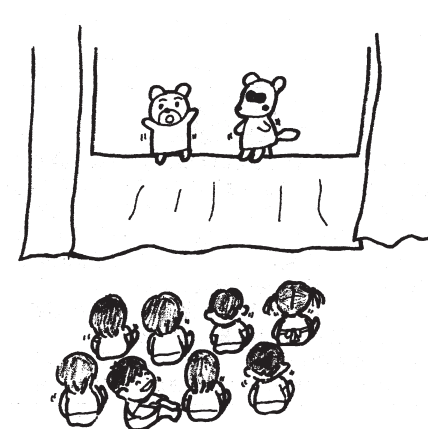
12:00~15:40

松戸市立図書館の  
絵本が借りられます。

図書館利用カードを  
持ってきてね!

人形展示もあります

図 16 「おはなしフェスティバル」ポスターの一例



### 東京成徳短期大学 ボランティア部

代表者 金城 悟 (きんじょう さとし)

連絡先 ☎ 03-3908-3533

東京成徳短期大学、ボランティア部です。  
幼児教育科で、保育者を目指し保育に関する理論や実技を学んでいます。  
活動内容は、様々なボランティア活動の他、人形劇や手遊び、手話ダンス等を練習し児童福祉施設や幼稚園などで公演をおこなっています。毎年、オリジナルの人形劇を作成し演じています！  
公演先を募集中です♪  
元氣な笑顔と楽しい人形劇を…お楽しみに♪

図 17 「わくわく人形劇まつり」ポスターの一例 (一部抜粋)

## 「わくわく人形劇まつり」スケジュール

曜日：2009 年 7 月 12 日(日)

会場：柏市中央公民館

千葉県柏市柏 5-8-12(教育福祉会館内) Tel.04-7164-1811

※柏駅東口から徒歩 10 分

| 時間      | 内容                                                                                                    | 担当                                                                      |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
|         | 柏駅集合                                                                                                  |                                                                         |
| 8 : 15  | <b>会場集合(玄関前)</b><br>※金城先生が車で荷物を運びますので、玄関前で受取、公演部屋に搬入します。<br>※ボラ部の公演部屋(うさぎのへや 4 階集会室)                  | ☆[出演者]会場集合<br>・2 年生全員<br>・1 年生司会担当<br>・この時間に来られる人<br>※上記以外の方は 12 時までに合流 |
| 8 : 45  | 出演者・スタッフ集合 ※場所：3 階受付                                                                                  |                                                                         |
| 9 : 00  | <b>会場準備・部屋ごとに打ち合わせ</b><br>(1)会場確認(うさぎのへや 4 階集会室)<br>(2)マイク・音響・立ち位置の確認<br><br>※[うさぎのへや]舞台監督：武藤さん(ベリーズ) |                                                                         |
| 10 : 10 | 開場：観客迎え入れ(3 階ロビー)                                                                                     |                                                                         |
| 10 : 30 | オープニング(3 階ロビー)                                                                                        |                                                                         |
| 10 : 50 | 各部屋の開演・開始<br>※昼食(12 : 30 までに各自でとること)                                                                  |                                                                         |
| 13 : 10 | ボラ部                                                                                                   |                                                                         |
|         | <b>「わくわく☆びっくりばこ！」スタート</b>                                                                             |                                                                         |
| 13 : 45 | 公演終了                                                                                                  |                                                                         |
| 15 : 00 | エンディング・送り出し・片付け                                                                                       |                                                                         |
| 16 : 00 | 現地解散                                                                                                  |                                                                         |

memo

図 18 人形劇フェスティバル当日のボランティア部スケジュール  
(2009 年度わくわく人形劇まつり)



図 19 人形劇フェスティバル「おはなしフェスティバル」  
※会場内で撮影。使用した人形と衣装



図 20 人形劇フェスティバル「わくわく人形劇まつり」  
※会場内の廊下。人形を用いて子どもたちと交流

#### (6) 桐友祭アンケート

桐友祭の人形劇公演では舞台終了後、観客にアンケート票を配布し、回答を依頼している。回答の一例を図 21 に示す。観客の回答例を見ると、学生の活動に対する好意的な評価が伺える。学生はアンケートの結果を見るのを楽しみにしており、観客からの好意的な評価はこれまでの活動に対する慰労と自己肯定感につながり、これからの活動におけるモチベーションの向上に寄与している。

良かった点・感想など

衣いよう、小物いづくなどとしてモニターしていた。

また半年もまたいである。

ありがとうにしています！

良かった点・感想など

一緒に見ていた子供たちもとてもいい笑顔で楽しんでいてすごい、おふんいき  
だと感じました。

良かった点・感想など

すごく楽しかったです。  
なんかあめ世になりました

良かった点・感想など

主作りの人形、学生さんの演技とても良かったです。

毎年来させて頂いていますが、今年はとくに良かったです。

他の演目も見ることができました！ がんばってネ！ かかいです。

良かった点・感想など

ストーリーも良かった

子供が答えて楽しめていた様子

夢の世界にひたれた30分だった。声がかゆい感じがした

図 21 人形劇公演後のアンケートの一例



## 7. 保育技術を生かしたボランティア活動の教育的効果

### (1) 保育技術に人形劇を導入することの意義

これまで本学ボランティア部における保育技術を生かしたボランティア活動の内容について分析した。ボランティア部では保育技術として特に人形劇を重視し、人形制作、公演活動を行い、保育技術の修得に努めた。人形劇は保育においてどのような意義があるのだろうか。先行研究の結果を踏まえ、保育における人形劇の意義を考察したい。

我が国の幼稚園教育の現場に初めて人形劇を導入した者は、東京女子師範学校附属幼稚園（現お茶の水女子大学附属幼稚園）の主事であった倉橋惣三（1882-1955）である。このことは倉橋本人の記述や、倉橋と共に人形劇の上演を行った保母の記述から推察することができる（菊池・徳久，1932）。また、倉橋の記述によると、その時期は1923（大正12）年頃であったことがわかる。倉橋は、人形劇の教育的意義について、監修を担当した『幼児のための人形芝居の脚本』において「おはなしの立体表現によって、幼児の想像と印象とを強くし深く得ることに特有の効果がある」と述べている。人形劇はお話を立体化させたものであり、視覚的な立体表現が加わるため、幼児にとって聞いた話の想像と印象が深まるものであると評価した。

倉橋は最初の人形劇の上演について「その時の私の心持の中には、型にはまつた幼稚園を、眞に子どもの世界らしい幼稚園にしたいといふ主張が、根本になつてはたらいてゐたに相違ないが、それよりも、もつと純な気持ちは、幼児達を喜ばせてやりたいといふことであつた」と記している（菊池・徳久，1932）。この記述から、倉橋が幼稚園教育に人形劇を導入した直接的な動機は「幼児達を喜ばせてやりたい」という純粋な気持ちであり、目的は「型にはまつた幼稚園を、眞に子どもの世界らしい幼稚園にしたい」というところにあると考えられる。さらに、初演後、「あの、初めて、お茶の水の幼稚園の遊戯室で、私の小さい舞臺の幕をあけた時の、幼児達のあの喜びといふものは……。私が、人形芝居を凡ての幼稚園に是非普及させたいと考へたのは、その初興行の幕をしめた直後のことであつた」（倉橋，1976）と記している。倉橋は自ら構成し実演した人形劇にはじめて接した子どもたちの姿をみて、人形劇が幼稚園教育に導入可能であることの確かな手応えを感じていたと推察される。

人形劇に対する倉橋の考えは、戦後の幼児教育にも受け継がれている。第二次世界大戦後の混乱期に、文部省が刊行したわが国で最初の幼児教育指導書である「保育要領」の中に、「人形劇は立体的であり、活動的であり、具体的であることによって幼児には特によろこばれる」という記述がある。また、人形劇の種類として①指使い人形芝居、②糸あやつり人形芝居、③影絵芝居、④その他（おもちゃを利用した人形芝居、あきびん利用の人形芝居など）、の4種類が示されている。保育要領は、1956年に改訂され「幼稚園教育要領」となった。1964年の第1次改訂版が発行されるまで幼稚園教育要領には人形劇に関する具体的な記述が掲載されている。国の教育指針の中に人形劇が位置付けられたことは、戦後の保育現場に人形劇が普及した大きな要因となっている。

幼児教育の研究者であり、幼稚園園長として子どもたちの発達を見続けた山内昭道（東京家政大学名誉教授）は、「保育者が、あまりうまくない操作で見せる人形劇でも、幼児たちが楽しく見てくれるという体験をしている私には、完成されたすばらしい人形劇がある今日でも、保育者が演ずる素朴な指使い人形劇が、倉橋の時代と同じように、子どもたちの心の中に生きると考えたいのである」と述べている（山内，1995）。このことは、倉橋の人形劇



に対する考えが現在の保育にも適用可能であることを示唆している。

人形劇が子どもに適した表現方法であることは現代の研究者も指摘している。例えば、三宅・浅野（2002）は「人形劇は他の演劇などと同じく、幼年期から老年期まで幅広い年代層で享受できる舞台芸術であるが、特に子どもと密接に関連している」と指摘している。

人形劇は基本的に3歳以上の子どもを対象としているが、近年は、3歳児未満の乳幼児を対象とした人形劇の公演が増加している（松崎，2009）。人形劇はすべての年齢層の子どもを対象とした舞台芸術であるといえよう。人形劇の意義をピアジェの発達理論、特にアニミズムの視点から論じる研究者・実践家も多い（例えば松崎，2008）。アニミズムとは幼児期の認知特性の一つで生命のない事物・事象に対し生命があり意志があるという思考のことである。人形劇に接する子どもたちを観察すると人形に声をかけたり、人形からの問いに答えたり、人形の動きに一喜一憂したりと人形を生きているもののように感じていることがわかる。人形劇に関わった経験から見ると受け入れやすい理論である。しかし、ピアジェのアニミズム論に関しては、理論の不備や見直しに関する研究報告（邦文だと稲垣・波多野，2005；中垣，2007 など）もあり、アニミズムから人形劇と子どもの関係を捉えることについては今後科学的な検証が必要であろう。

人形劇の役割について Burn（1989）は、人形劇は、子どものコミュニケーションスキルを向上させ、言葉の壁を克服し、セルフコントロールを教えることを支援することができる」と述べている。安東・鈴木・瀬戸（2011a）も、「人形劇は、演技者が子どもたちに思いを伝えるコミュニケーションツールである」と指摘している。人形劇は保育者と子どもがコミュニケーションを行う上で効果的な手段であることが示されている。保育者養成における人形劇指導の意義について、米谷・棚橋・向平（2008）は、京都女子大学において高度で専門的な保育技能と対人技能を備えた実践力のある保育者を養成する目的で人形劇を取り入れた教育プログラムを開発・展開した経験から「保育者養成大学の授業に人形劇を導入することの意味は、単に学生が保育者となった際に幼児教育・保育の現場で人形や人形劇を通して保育したり、子どもたちと関わったりするためだけではない。さまざまな気づきを得、そこから一人の人間として成長する。さらに、子どもに人形劇を見せようと工夫・研鑽する学生の感受性と状況対応力、すなわち、基本的なコミュニケーション能力を高めると考える」と述べている。人形劇はただ単に保育技術の向上に寄与するだけではなく、保育者としての資質そのものにプラスの影響を及ぼすと考えられるのである。

ボランティア活動における人形劇の役割については、これまでもプロ、アマの人形劇団やボランティア団体によって各種の人形劇ボランティア公演やチャリティー公演が実施されていることを鑑みると、その重要性が立証されていると考える。2011年3月11日に発生した東日本大震災による甚大な被害を目の前にし、人形劇界は被災地の子どもたちへの支援活動を積極的に行っている。例えば、「いい顔・笑顔・人形劇の会<sup>注3)</sup>」は全国の人形劇団と被災地の子どもたちをつなぎ、被災地の子どもたちに人形劇を届け、子どもたちと笑顔のある時間をともに過ごそう、という活動を実施している。「いい顔・笑顔・人形劇の会」の発足に尽力した保育者養成系の大学教員で自らも全国各地で人形劇を上演する人形劇人でもある幸田（2003）は、阪神淡路大震災の被災地におけるボランティア人形劇上演を観劇した子どもの反応について「地震の恐怖感のためそれまで母親から離れられなかった子どもが、はじめは舞台に背を向けて母親に抱きついていたのが、人形劇を見ている間に、前向きに座り、

やがて母親の手を離れて、徐々に舞台に近づいたという例がある。これは、人形劇が持っている力、子ども自身が持っていた恐怖心をその時には忘れさせるという大きな力があるということ」、大人の反応については「子ども向けの人形劇をいっしょに見ていたおとなたちが、子どもと一緒に笑うことで、毎日の緊張した生活から一時的にせよ離れることで心が解放されるという意味のことを何人とも聞いた。また、子どもたちの笑い声や、笑顔で心が救われたという声もあった。人形劇の上演は、大人の心も開放することがはっきりした」と述べている。さらに「制約された生活を送っていた子どもたちにとって、人形劇を見ることは心のケアとして大きな意味があった」と指摘している。幸田（2000, 2003）は、子どもたちが人形劇を楽しむことの大きな要素として安心感があること、人形劇は子どもの心のケアに役立つセラピーとしての役割を果たすものであることを指摘している。これは、人形は子どもが恐怖を感じる事がなく、思いやりのある友達として受け入れられる存在である（Hunt & Renfro, 1982）からこそ可能になるものであると考える。Lennon & Barbato（2001）は、子どもを対象とした遊戯療法に関する論述の中で、人形は子ども自身の感情表現や行動変容を促進するツールとして有効であると述べている。Lennon らの知見は、幸田（2000, 2003）の指摘したセラピーとしての人形劇の役割を支持するものであろう。数多くの震災ボランティアに関わった幸田眞希氏は、現在、人形劇を活用した耐震構造・防災意識に関する啓発活動をリスクマネジメントの専門家や地震研究の専門家と連携して行い、効果を上げている（幸田, 2011）。このことは人形劇が震災被害だけではなく、子どもを取り巻くさまざまな危険に対する予防的な意識と技術を伝えるものとして有効であることの可能性を示唆するものであり、今後注目に値する実践活動である。

ボランティアの現場で出会う子どもたちは、何らかの心のケアを必要とする状況にある場合が多い。人形劇はボランティアの現場でセラピーとしての機能を十分に果たしうるものであり、保育技術に導入する技術として適しているといえる。

これらの先行研究の指摘から、保育技術に人形劇を導入することの中心となる意義は、(1) 人形劇は子どもに楽しさと喜びをもたらすものであること、(2) 子どもとのコミュニケーションスキルの向上が図られること、(3) 保育者としての資質向上が図られること、(4) 人形劇はボランティア活動に有効な保育技術であること、と結論付けてよいと考える。

## (2) ボランティア部卒業生のアンケート結果から見た教育的効果

保育学生による保育技術を生かしたボランティア活動の教育的効果を検討する目的で本学ボランティア部卒業生 20 名を対象に調査票を郵送し、12 名から回答が得られた（回収率 60%）。調査票は、フェースシート（卒業年度、年齢、現在の職業）及び 8 つの質問、3 つの自由記述で構成されている。質問は人形劇の体験を中心に設定した。

### 1) クラブに入部したきっかけ

ボランティア部に入部したきっかけを表 7 に示す。「5. その他」を除く、4 つの選択肢すべてに回答が記されている。最初から入部の意思があった学生と先輩の人形劇実演を見て入部した学生の両方で入部きっかけの約 7 割を占めている。本学では新入生入学後の 4 月にクラブ・サークルを紹介するイベントが開催されており、そのイベントでボランティア部は毎年人形を用いてクラブ紹介を行っている。また、イベント終了後、2 年生部員による 1 年生の勧誘が行われている。実際に先輩が人形を操作する姿を間近に接することは入部きっかけの大きな要因になっている。

表7 入部したきっかけ

| 選択肢                              | 回答数 |
|----------------------------------|-----|
| 1. ボランティア部の2年生に勧誘された             | 3   |
| 2. 同級生に勧められた                     | 1   |
| 3. 最初からボランティア部に入ろうと思った           | 4   |
| 4. ボランティア部の先輩の人形劇などの実演を見て入ろうと思った | 4   |
| 5. その他                           | 0   |

## 2) 入部したことへの満足度

クラブに入部したことについて「非常に満足している」が11名を占めた(表8)。残りの1名は「やや満足している」と回答した卒業生であり、ボランティア部卒業生は入部したことへの満足感が高いといえる。

表8 入部したことへの満足度

| 選択肢          | 回答数 |
|--------------|-----|
| 1. 非常に満足している | 11  |
| 2. やや満足している  | 1   |
| 3. どちらともいえない | 0   |
| 4. やや不満である   | 0   |
| 5. 非常に不満である  | 0   |

## 3) 学生生活の充実度について

ボランティア部に入部したことにより学生生活は充実したものになったかという質問に対し、全員が「やや充実した」「非常に充実した」のいずれかに回答している(表9)。ボランティア部卒業生はボランティア部での活動により学生生活が充実したと考えるものが多いといえる。

表9 学生生活の充実度

| 選択肢             | 回答数 |
|-----------------|-----|
| 1. 非常に充実した      | 9   |
| 2. やや充実した       | 3   |
| 3. どちらともいえない    | 0   |
| 4. あまり充実したといえない | 0   |
| 5. まったく充実しなかった  | 0   |

#### 4) 入部を後輩に勧めるか

ボランティア部への入部を後輩に勧めるかという質問に対し、全員が「薦める」と回答している（表 10）。ボランティア部の活動に対する卒業生の評価は極めて高いといえよう。

表 10 入部を後輩に勧めるか

| 選択肢    | 回答数 |
|--------|-----|
| 1 薦める  | 12  |
| 2 薦めない | 0   |

#### 5) 人形劇体験の満足度

ボランティア部で人形劇を体験して満足しているかという質問に対し、12 名全員が満足していると回答した（表 11）。人形劇活動に対する、満足度は高い。

表 11 人形劇体験の満足度

| 選択肢          | 回答数 |
|--------------|-----|
| 1. 非常に満足している | 11  |
| 2. やや満足している  | 1   |
| 3. どちらともいえない | 0   |
| 4. やや不満である   | 0   |
| 5. 非常に不満である  | 0   |

#### 6) 保育技術の勉強を続けたいか

「学生時代にボランティア部で体験した人形劇や手遊びなどの保育技術の勉強を保育者になっても続けたいと思いますか」という質問に対し、10 名が「そう思う」、2 名が「どちらともいえない」と回答した（表 12）。回答者に確認したところ、続けたくても仕事が忙しくて現実的には続けられない、人形劇の勉強は一人では難しい等の回答が得られた。このことは、保育現場には保育技術を学ぶことのできる環境が整っていないことを示唆するものであると考える。資質の高い保育者として子どもの保育を担うためにも保育技術を学ぶことのできる環境整備が保育機関の経営者・管理者に求められている。

表 12 保育技術の勉強を続けたいか

| 選択肢          | 回答数 |
|--------------|-----|
| 1. そう思う      | 10  |
| 2. どちらともいえない | 2   |
| 3. そう思わない    | 0   |

## 7) 保育者としての仕事に役立つか

「ボランティア部での活動（人形劇など）は保育者としての仕事に役立つと思いますか」という問いに、12名全員が「役立つと思う」と回答した（表13）。ボランティア部の活動は保育技術を生かしたものであり、このことが保育の現場で保育者として日々子どもに接している卒業生に肯定的に評価されたものとする。どのような点が役立つと思うかという自由記述の回答例を図22に示す。図22の結果から、保育現場で子どもたちや保護者、大人を前にして保育技術を用いたパフォーマンスを行う際の自信につながっていることやボランティア部で学んだ保育技術が保育現場で応用できることが示されている。

表 13 保育者としての仕事に役立つか

| 選択肢             | 回答数 |
|-----------------|-----|
| 1. 非常に役立つと思う    | 10  |
| 2. やや役立つと思う     | 2   |
| 3. どちらともいえない    | 0   |
| 4. あまり役立たないと思う  | 0   |
| 5. まったく役立たないと思う | 0   |

## 8) ボランティア部に入学してよかったと思うこと、楽しかったこと

「ボランティア部に入学して良かったと思うこと、楽しかったこと」という質問に対する自由記述の回答例を図23に示す。図23から部活の仲間と人形劇公演という目標に向かってグループワークを行い、達成感を味わったことがわかる。ボランティア部へ入学したことを卒業後、現在においても肯定的に感じていることが示されている。

## 9) ボランティア部の活動で大変だったこと、がんばったと思うこと

「ボランティア部の活動で大変だったこと、がんばったと思うこと」という質問に対する自由記述の回答例を図24に示す。図24から人形劇公演の準備・練習の段階が大変だったと感じており、大変だと感じるプロセスを経て達成感・自己肯定感を得ることが示されている。

## 10) ボランティア部の活動を通して学んだこと、身についたこと、自分を成長させたこと

「ボランティア部の活動を通して学んだこと、身についたこと、自分を成長させたこと」という質問に対する自由記述の回答例を図25に示す。図25から保育技術が身についたこと、保育技術を用いて子どもや保護者の前で演じることに積極的になれたことが示されている。松尾（2010）は、保育士養成校時代には保育ボランティア経験を多く積み、即戦力となることが新任保育士になる者に求められている課題であるとし、保育士として身につけていなければならない知識は学生時代に押さえておくこと、保育士養成校時代にいかにして子どもとのかかわりを円滑にできるような技術を身につけるかが求められていると指摘している。本学ボランティア部で保育技術を用いてボランティア活動を行った経験は、松尾（2010）の指摘した課題を達成するものであるといえよう。

1-2に丸をつけた方へ どのような点が役立つと思いますか？

子どもたち、大人、たくさん人の前で人形劇など発表することは、緊張すると思うが現場にでた時、自信につながると思うから。  
大きな声を出したり、感情をいれて役をおこなうことは、身につけておくと紙芝居を読む時などでも役立つと思います。

1-2に丸をつけた方へ どのような点が役立つと思いますか？

人の前に立ってやること、現場では子どもたちの前に立って保育をすることに繋がっていくと思います。声の調子、演じる、人に喜んでもらうということは保育士としてのやりがいにも似ている気がします！

1-2に丸をつけた方へ どのような点が役立つと思いますか？

園行事などで人形劇を演じた経験があります。その際、人形のやりとりや減や登場するときの角度、動き等... 子どもたちが見やすいように、入りやすいように実演の仕方、それも非常に細かいポイントを習得することができた。

1-2に丸をつけた方へ どのような点が役立つと思いますか？

活動と活動の間に紙芝居をよんだり手あそびをしたりと子どもの前に立って保育を進める場合に役立つと思う。  
木田友隆での人形劇の台本を考えたときと同じように子ども目線で、製作やお誕生日会の内容を考えられている点が、役立っていると思う。

1-2に丸をつけた方へ どのような点が役立つと思いますか？

ボウ部で作った人形は、今でも保育で使用させてもらっていますし、子ども達の前に実際に演じることで、自信や保育技術の基礎が身に付いたと思っています。

図 22 保育者としての仕事に役立つ点

(自由記述回答例)



桐原景、という1つのイベントに向けて 作ったり練習したり。

本番 私の役割は音響で裏方ではあったものの。

仲間と 作り上げていく過程が とても楽しかった。

あとは、本番演じている時、幕の向こうから聞えているお客さんの反応、笑い声♪

忙しい学校生活の中だったけれど、みんなと小道具を作ったり、

劇の練習をして文化祭で講演出来たことはとても楽しかったです。

中田先生に指導して頂いて人形劇の演じ方、パネルの演じ方を学ぶ事が出来てとても良かったと思います。

仲がよい友達とボランティア部に入った事もあり、楽しい2年間を過ごす事が出来ました！ 私達の時から人形劇が始まり、すごく戸惑った時もありましたが、色々な経馬糸が出来、今の保育に役立っているのも本当に入部して良かったと今になって思います。

何より1番は仲間に出会えたこと。我が子のように接してくれた金城先生、中田先生に出会えたことです。

何か1つのものを作りあげる楽しさ、達成感(は学生時代にみんなです)やりとげたこと(は今に繋がっている気がします)。

「人形劇、青春でいた♡」(笑)

ボラ部に入って、たくさんの素晴らしい仲間や先生、先輩方に出会い、子どもたちやお客様に楽しんでもらえるように皆で考え作り上げた人形劇を発表することの楽しさを感じられたことがよかった。

また、いろいろな種類のパネルシアターを作ることができてよかった。

図 23 ボランティア部に入部してよかったと思うこと、楽しかったこと  
(自由記述回答例)

不器用な私、人形を作ったりする事がとても大変でした。金城先生や中田先生にゆくり教えてもらえて嬉しかったです。しかも、すぐに飽きてしまう私をここまで優しく気長に接してくれて今さら感謝です。ありがとうございます。

人形劇りやその他演目の準備。この活動力があってからこそ、幼稚園での活動も乗り越えられたのだと思う。毎日遅くまでよく元氣張ってたなーと振り返るとなつかしいです。しかし全く苦ではなかったのが不思議です。あの頃に帰りたい！

バイトと学校の実習やテストとの両立が大変だったけれど、みんな無理なく、支え合って、集まった時にはわきあいあい楽しく出来た事が何事もなく頑張れました。

短大生活は、授業もぎゅーりで大忙しだったので、人形劇のれんしゅうなど（準備等）が帰日も遅くなって、次の日に学校へ行って…の繰り返しの日々がたいへんな時もあった。

（…と今、考えてみると、学生時代はそれがあたり前だったのでたいへんと思う日はあっても、それほどたいへんとは思っていません。）

・少ない学生生活の中で、子どもにわかりやすいストーリー作り、人形作りなど初めてのことで（ばかりで）大変だったが、ボラ部みんなと力を合わせて、かえりながら思っています。

図 24 ボランティア部の活動で大変だったこと、がんばったと思うこと  
（自由記述回答例）

- ・人形劇の演じ方、作り方、パネルの演じ方、作り方、手遊び
- ・人前に立って楽しく演じるという事に自信を持ちたい。
- ・歌がうまい、お話がうまい、踊りがうまい等確かに必要だけれど、私は、うまいなくてもみんなの前に出て楽しく演じるという事が何よりも大切だとわかりました。楽しく演じる事で見る人も笑顔になれます。

人数が少ないながらもみんなで作って、一つの目標に向かって突き進むことの楽しさ、大切さを学びました。人形作りや舞台作りなど実践できる技術も学べ、自分の糧となりました。中田先生の手遊び、人形劇指導は本当に使える！貴重なご指導をしていただき、感謝申し上げます。

子ども達の前には立つ役割が身に付きました。  
またキャラクターになりきることで、絵本の読み聞かせにも役立ったと思います。そしてより保育技術の基礎が身に付いたと思います。感謝申し上げます。

ボランティア部の活動を通して、人前に立って演じることの楽しさ、そして難しさを学んだ。紙芝居でも絵本でも、パネルシアターでも、子どもに楽しんでもらうためにはまず自分が楽しんで行うことが大切だということ学んだ。

手遊びもいくつか教えて頂いたり今でも保育に役立っています。  
又演じる事の大切さ。子ども達の前で今は魔法使いになっちゃってます(笑)結構すぐに飽きてしまう私ですが2年間続けた事で努力したり飽き止めないという事を学んだかなと思います。今でも幼稚園の先生系続けていますし。

図 25 ボランティア部の活動を通して学んだこと、身についたこと、自分を成長させたこと  
(自由記述回答例)

### (3) 保育技術を生かしたボランティア活動の社会的効果

保育技術を生かしたボランティア活動は、学生における教育的効果の他に社会的効果も生みだす。ボランティア部が取り組んだ幼稚園、保育所(園)、児童福祉施設等におけるボランティア活動においては、子ども達や保護者、職員、ボランティア関係者に笑顔と感動をもたらすものであった。ボランティア先から「東京成徳のみなさんが来てくれて本当によかった」「また来てね」という声をかけられることは、何よりも社会から評価を得る喜びと満足感を学生に与えていた。ボランティア先においてもボランティア部の学生が貴重な人的資源として位置付けられていたことから、ボランティア部の活動が評価されていたことがわかる。さらに、ボランティア部の桐友祭での公演は、2年連続で学長賞を受賞しており、保育者養成校においても高く評価されている。保育技術を生かしたボランティア活動は、幼児教育や児童福祉の領域で求められている活動であると考えてよいだろう。

ボランティア部の活動は、公的機関からの評価を得ることもできた。2010年5月27日(木)の「こんにちはいっと6けん」(NHK)という番組の中でボランティア部の活動が放送された(図26)。保育技術を生かしたボランティア活動は、社会一般的にも評価される活動になり得ると考える。



図26 NHKの取材現場で  
※東京都北区いなりプレーパークで人形劇公演の取材を受ける

## IV まとめと今後の課題

本研究は、保育技術を生かしたボランティア活動の教育的効果について、東京成徳短期大学ボランティア部の5年間の活動を分析対象とし検討したものである。ボランティア部では保育技術として人形劇を中心とした公演プログラムを構成し、幼稚園、保育所(園)、知的障害児施設等の児童福祉施設を対象としたボランティア活動に取り組んできた。ボランティア部における5年間の活動結果から、人形劇を中心とした保育技術を生かしたボランティア

活動の体験は、保育学生にとってつぎの10の教育的効果が認められることがわかった。

(1) 保育技術の向上

※人形劇、手遊び、歌遊び、ペープサート、パネルシアターなどの保育技術

(2) 保育技術を用いて子どもや保護者を前に表現活動を行うことに対する積極性の向上

(3) 保育技術の修得過程においてグループワークを密に体験することによる対人関係能力の向上

(4) 子どもとのコミュニケーションスキルの向上

(5) イベントの実現力（企画力、対人交渉・調整力、演出力、プロセス全体のマネジメント力）

(6) 保育技術の修得過程及びボランティア活動で培われる忍耐力、自己や他者の心理状態への気づき、他者に対する共感能力の向上

(7) 学生生活に対する満足感の向上

(8) 卒業後、就職先である保育現場においてボランティア部で修得した保育技術を発揮できること、卒業後も保育技術向上に意欲的になれること

(9) 保育技術修得に関する持続可能なモチベーション形成

(10) ボランティア活動及びボランティアを必要とする社会状況に対する興味・関心の向上

本研究は、本学のボランティア部における部活動を分析対象としたものであるが、本研究で得られた教育的効果は短期大学のみならず、4年制大学においても有効であると考えられる。さらに、本研究の結果から、人形劇を中心とした保育技術の導入は、部活動だけではなく、通常の授業においても保育学生の保育技術を高める効果があることが推察される。

実際に、人形劇を大学のカリキュラムの中に位置付け、実施している大学は多い。例えば、聖徳大学・聖徳大学短期大学部は人形制作の設備・備品が完備された教室を有し、常設の人形劇舞台を活用した専門的な人形劇指導を「児童文化」の科目の中で実施している。岐阜聖徳学園大学短期大学部幼児教育学科においては1966年の開学以来、人形劇制作・発表を行っている（熊田，2005）。京都女子大学は、プロの人形劇人である丹下進氏を講師とした人形劇指導を「保育技能実習」という科目の中で実施している（米谷・棚橋，2006）。「いい大人形劇フェスタ」というわが国でも有数の人形劇フェスティバルが開催される長野県飯田市にある飯田女子短期大学においても授業の中に人形劇を取り入れている（大学ホームページより）。さらに、東京成徳短期大学においても「児童文化演習」という科目において我が国の人形劇団を代表する人形劇団プークの渡辺真知子氏による人形制作・人形劇発表を含む授業が設定されている。今後、保育系の学科を有する短期大学・大学において保育学生が人形劇等の保育技術を修得することが可能な科目の設置推進が望まれる。

学生のボランティア活動は社会からますます必要とされている状況にある。保育技術という子どもを対象としたボランティア活動において極めて効果的な力を発揮するツールを持つ保育学生は、ボランティア活動場面や卒業後の保育場面で今後も活躍が期待される「人財」となるであろう。

## 注

1) 人形劇団プークは1929年に創立された日本の現代人形劇を代表する人形劇団である。国内外



で数多くの公演活動を行っており、我が国の人形劇人と世界の人形劇人を結びつける役割を果たしている。新宿駅近くに日本初の常設型人形劇専門劇場を保有し、現代人形劇のみならず日本各地の伝統人形劇や海外の人形劇の公演もプロデュースしている。学校教育における人形劇普及や人材育成にも力を入れており、その活動は高く評価されている。

2) 外部指導者の金城久美子は本学の外部指導者登録及びボランティア部における指導活動においては旧姓による中田久美子を使用。

3) 「いい顔・笑顔・人形劇の会」は全国のプロ・アマを含む人形劇人や人形劇団体、人形劇関係者などで構成された震災支援活動を行動主旨とする非営利団体である。これまでに1995年の阪神・淡路大震災、2004年の中越地震、2007年の中越沖地震の支援活動を行っている。

<http://iikao.org/>

## 謝辞

ボランティア部の活動に終始ご支援を賜りました東京成徳短期大学木内秀俊学長に心から感謝申し上げます。

## 参考文献

- 安東恭一郎・鈴木政勝・瀬戸郁子 (2011a)：人形劇製作を通じた表現力の育成 (1), 香川大学教育実践総合研究, 23, 33-45.
- 安東恭一郎・鈴木 政勝・瀬戸 郁子 (2011b)：人形劇製作を通じた表現力の育成 (2), 香川大学教育実践総合研究, 23, 47-57.
- 稲垣佳世・波多野誼余夫 (2005)：子どもの概念発達と変化：素朴生物学をめぐって、共立出版.
- Burn, J. (1989) Express it with puppetry—an international language. In S. Hoffman, and L. Lamme (Eds.), Learning from the inside out. Wheaton, MD: Association for Childhood Education International.
- Hunt, T., and Renfro, N. (1982). Puppetry in early childhood education. Austin, TX: Nany Renfro Studios.
- 菊池ふじの・徳久孝子 (1932)：『倉橋惣三監修 幼児の為人形芝居脚本』、フレーベル館.
- 金城久美子 (2009)：倉橋惣三と人形劇－幼稚園教育へ導入の動機と目的に関する一考察、幼児教育史研究, 4, 13-27.
- 幸田真希 (2000)：「人形劇とセラピー」の可能性を探る、日本人形玩具学会会誌, 11, 36-43.
- 幸田真希 (2003)：震災と人形劇 いい顔・笑顔・人形劇の会報告集、いい顔・笑顔・人形劇の会, 6-20.
- 幸田真希 (2011)：人形劇を活用した耐震構造・防災意識に関する啓発、第四紀研究, 50(5), 271-273.
- 熊田武司 (2005)：保育者養成校における人形劇制作の一考察－児童文化研究「人形劇脚本」の変遷から、岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要, 37, 39-66.
- 倉橋惣三 (1976)：『フレーベル新書 11 子供賛歌子供賛歌』、フレーベル館.
- 倉橋惣三 (1930a)：「人形芝居の話：幼稚園談話會講演の要略筆記」、日本幼稚園協会.
- 倉橋惣三 (1930b)：「幼稚園令の読み方 (承前)」、幼児の教育, 26(11), 2-19.
- Lennon, J. & Barbato, P. (2001). The emotions: A vocabulary before language. The Journal of the Imagination in Language Learning and Teaching, 6, 1-2.
- 松尾寛子 (2010)：新任保育士の保育技術向上に向けての取り組みについての一考察—新任保育士からのアンケートを中心に、関西福祉大学社会福祉学部研究紀要, 13, 183-187.
- 松崎行代 (2008)：学校教育における人形劇の教育的意義と課題－飯田市の学校における人形劇活



- 動充実のために. 飯田女子短期大学紀要, 25, 61-75.
- 松崎行代 (2009): 3歳未満を観劇対象とした人形劇の現状と特徴. 飯田女子短期大学紀要, 26, 47-58.
- 三宅茂夫・浅野泰昌 (2002): 幼児教育における人形劇の教育的価値に関する先行研究の問題点—倉橋惣三, 川尻泰司, 内山憲尚, 清水浩二を中心にして. 教育諸学研究, 21, 19-30.
- 文部省 (1948): 保育要領—幼児教育の手びき. 文部省.
- 文部省 (1956): 幼稚園教育要領. フレーベル館. 1956.
- 文部省 (1979): 幼稚園教育 100 年史. 文部省.
- 文部科学省 (2012): 短期大学について (高等教育局大学振興課短期大学係). 文部科学省.  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/tandai/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/tandai/index.htm)
- 向平知絵・棚橋美代子・米谷 淳 (2007): 保育学生に対する人形劇の実習指導に関する一考察. 大学教育研究, 16, 33-50.
- 中垣啓 訳 (2007): ピアジェに学ぶ認知発達の科学: Piaget's theory. 北大路書房.
- 山内昭道 (1995): 幼稚園における人形劇 戦後 50 年. かたち・あそび, 日本人形玩具学会会誌, 7, 69-75.
- 米谷 淳・棚橋美代子 (2006): 丹下進の人形劇に学ぶ--京都女子大学「保育技能実習」の特色ある取り組み. 大学教育研究, 15, 15-36.
- 米谷 淳・棚橋美代子・向平知絵 (2008): 保育者養成における人形劇の活用—丹下進の人形劇指導. 京都女子大学発達教育学部紀要, 4, 29-39.
- 古川伸子・佐々木 雅子 (2007): 保育の中の人形劇, 宝仙学園短期大学紀要, 32, 1-4.